

泉鏡花の戯曲の最高傑作を
能舞台で音楽劇として上演

泉鏡花作

天守物語

ああ、私ももう一目、
あの気高い、美しいお顔が見たい。

出演

富姫
図書之助

藤堂
亀姫

鳴海

円地

金澤

叶倫

翔也

早苗

晶子

里子

樹敬

夏琉

安利

実利

安鉄

安賢

安一

安笠井

安八田部

安茅根

安本村

安葛

安桔梗

安山橋

安石橋

安樹

安敬

安里

安子

安苗

安晶

安翔

安也

安早

安苗

安晶

大正2年～大正6年は鏡花にとつて戯曲の時代であり
⁽¹⁹¹³⁾

名作を立て続けに発表した。『夜叉ヶ池』大正2年、『海神別荘』
同年、そして大正6年この戯曲が発表された。

今では鏡花の最高傑作として度々上演される『天守物語』
は、今日でも様々な演出の可能性に満ちた作品である。

この度の上演は能舞台——それはまさに城の天守閣を彷彿
させる劇空間である。その劇空間でこれまでにない音楽劇
(吹き物・打ち物・琵琶・三味線と歌・シンセサイザー)として、
衣裳は細田ひな子の遺作の唐織と装束により上演する。

演出家 笠井 賢一

あらすじ

時は封建時代、播州姫路城の天守閣の五重。ここは
かつてこの城の城主に凌辱されそうになり舌を噛み切つ
て死んだ上臍の化身富姫とその侍女たちが支配する妖魔
の世界である。ここには姫路城の武士も足を踏み入れる
ことができない。

おりしも富姫の妹分である、猪苗代の城の亀姫が遊びに
来る。亀姫は播磨守の弟の猪苗代城主の生首を土産に
持参している。一人は鞠をついてあそび、土産のお返しに
迷いこんだ白鷹を富姫は捕らえ亀姫に持たせる。

夜更け、その五重に主君の白鷹を探して鷹匠図書之助
が足を踏み入れる。図書之助は播磨守秘蔵の鷹をそら
した罪で切腹を命じられる代わりに鷹を探索にこの魔
界に足を踏み入れたのだ。「千歳百歳^{ちとせ もよどせ}にただ一度、たつた
一度の恋だのに」。富姫と図書之助の恋の行方は・・・。

〈出演〉 富姫 藤堂叶倫

ほおづき 本村琉夏

音楽

吹き物 振付

打ち物 橋

設楽

琵琶 岩佐

政愛

美術

宣伝 照明

瞬山

監督

多田

オノマヒロ

構成

笠井

和人

演出

八木沢

岳晶

照明

山村

千代



2025年
9月26日金 18時30分
15時(45分前開場)

○会場 鏡仙会能楽研修所

東京都港区南青山4-21-29
TEL 03-3401-2285

交通「表参道駅」A4出口→徒歩3分

鏡研修所

○入場料(全自由席)

前売券 4500円(税込)
当日券 5000円(税込)

*全席座椅子付き
(足を伸ばしてゆったりご覧いただけます)

○お申込み・お問い合わせ

アトリエ花習(鈴木)

TEL 090-9676-3798

✉ mail@atelierkashu.com

ホームページ atelierkashu.com

○お申込フォームへ→

○主催 一般社団法人アトリエ花習

〔予告〕11月23日(日・祝) 15時 鏡仙会能楽研修所
泉鏡花作『月夜遊女』



逗子の浜で揚がった巨大な鮎鱥を手荷するうらかし
と美しい遊女と化して隠棲した老政治家をたぶらかし:
日露戦争の渦中に書かれた奇想天外な喜劇。第次世界大戦。
ロシア革命の時期に書かれた『天守物語』同様に反戦劇とも
読める作品。天守物語に続きアトリエ花習の笠井賢一演出、
冨地晶子・平井真執による上演。琵琶岩佐鶴丈。